理事会議事録

特定非営利活動法人つどい

理　事　長　　　原　泰夫

1. 日時：2024年5月21日（火）　18：00 ～ 20：30
2. 場所： 区立児童相談所内　会議室A・B
3. 出席： 理事：原泰夫・三井美和子・坂ますみ・齋藤幸夫・市川徹

早野節子・橘直之

監事：遠藤慧・石橋もと子（オンライン）

　　　　　 事務局：原ひろみ・畑江正訓

　　　　　　　　　 佐々木仁美（事務局説明員）・小倉健時（事務局説明員）

　　　　　　　　　 小宮栄一郎（事務局説明員）

欠席：平福恵津子・三木義一

1. 議長及び議事録署名人２名の選出
議　長：原泰夫

議事録署名人： 三井美和子、市川徹

1. 議　題

□審議事項

　　１．2024年度定期総会の議案について

　　・2023年度事業報告について

橘事務局長及び各事業所管理者（事務局説明員）より事前に配布した資料を基に説明があった。

上記を踏まえ、理事より以下のような意見があった。

・（つどいの家の）利用率減少が経常収支に大きく影響しているようだが、具体的な対策は考えれているのか？

　→利用者の高齢化、持病の悪化などにより利用率が減ってきている。関係機関と繋がりを持って、見学者の増加を見込んでいる状況である。

　→送迎バスの運行スケジュールの調整が難しくなっている。

　→（東北沢）利用者の長期欠席があり、利用率減少を招いた。今後、当該利用者の復帰を検討はしているが、現実的には難しい状況である。

・（なかまっちについて）収支のマイナスになっているが、区の指定管理業務として予算が区から指定されている中、なかまっちが大切とするマンツーマン体制による人件費増、負担増が増えている事が理由である。設立から20年が経ち、これまでのサービスを維持するのが難しい状況である。時勢と共に、支援体制の変化が求められている。また、昨今の人材確保の困難が人件費増の原因となっていると思われる。

　→丁寧な支援をしている。マンツーマン体制の考え方を改めていく必要を感じている。

・（マンツーマン体制について）利用者の母として、一対一である安心感はあるが、通常は見れる位置にいるのであれば一人が複数人を見るのも有りだと思う。ただ、イレギュラーがあった場合は、一対一で付いてくれる事が安心感に繋がる。

・（ぽーとたまがわ・なかまっち相談室について）現場の会議に定期的に参加させて頂いているが、様々なケースに対して粘り強く、丁寧に対応している。

・（グループホームきぬたについて）介護保険との兼ね合いについて、利用者の高齢化と共に必要性が増してきている。

・（事務局について）事務局体制の強化とはどのような取り組みを考えているのか？

　→事業計画にも記載しているが、法人の財務、会計の強化・整備として、令和6年度より各事業所の事務員と連携を持つための事務会を開催予定である。

　　・2023年度事業決算について

　橘事務局長より、事前に配布した資料を基に説明があった。

　上記を踏まえ、理事・監事より以下のような意見があった。

・概要に関しては分かったが、収支のマイナスについてもう少し具体的な説明をしてほしい。

　→（生活介護事業に関して）利用率低下により当初予定額より700万程、業務委託費の高騰により400万程のマイナスが出た。

　→（なかまっちに関して）常勤職員増、事業形態の変化に伴う経費増、非常勤職員の報酬下限額の上昇による人件費増がマイナスの要因である。区への業務実態に即した予算額を求める交渉が必要である。

・当法人だけの問題ではなく、他法人も含めて事業運営の難しさについて、自立支援協議会等でも取り上げていき、全体の問題なのだと世田谷区へ交渉をする事も大事である。

・利用者の登録を増やして、利用率が下がる日には緊急やスポットの利用者を受け入れる体制も必要なのでは？あらゆる経営努力、手を尽くすべきではないか？

・月次の決算状況を確認していたが、収入（補助金等）が入るタイミングと、支出のタイミングがズレて、正確な状況を確認できなかった。

・人材確保するためには、費用を惜しまず使える手は使う事は必要である。

・ここ数年、決算書が整備できてきている。

・事業運営を継続するための、予備費の正確な把握が必要だと感じる。

・相談支援事業所が課税対象となり、過去数年分の消費税の支払いが必要になった。

　　　　　　**以上の審議を踏まえ、「令和5年度事業報告（案）」「令和5年度事業決算（案）」は賛成多数により承認された。**

２．中長期計画について

齋藤理事より当日配布した資料を基に報告がなされた。

上記を踏まえ、理事より以下のような意見があった。

　　　　　　・職員との距離感を大事にすることが必要だと感じた。そのためには、日ごろからのコミュニケーションが必要だと感じた。

　　　　　　・中長期の計画だけではなく、目の前の問題、課題に対してしっかり対応する事を大事にしてほしい。並行して進めて行ってほしい。

　　　　　　・職員に今後の計画を考えてもらい自分事として捉えてもらう機運を高めていく必要がある。

1. その他

□なかまっち生活相談員の退職について

橘事務局長より当日配布した資料を基に報告がなされた。

上記を踏まえ、理事より以下のような意見があった。

・法人内の交流、研修が日常的に行われていれば、もっと違う展開もあったかもしれない。

・（本人と話しをして、）異動の目的やスキルアップについて丁寧な説明をした。異動は組織で必要なものである。期待もあったため、（退職に至ったのは）誠に残念である。

・「業務内容が身体介助からケースワークに変わった」とあるが、生活介護こそケースワークだと思う。なかまっちの仕事を大変だと感じてしまっているが、面白みもある事を知ってほしかった。なかまっちの仕事に対する印象を、法人全体で変えていく、考えていく事が大事だと思う。

・自分の提案が通ったり、仕事がワクワクする部分を伝えていく。法人の魅力を伝え、醸成

していく事が大事だと思う。

・退職自体はあるもので、1カ月経たずに辞めるという事は計画性もあったのかもしれない。

・一度退職した職員のカムバック制度を設けている法人もある。

・異動元の利用者の保護者から見た本人にとって、なかまっちの異動は難しいと感じられていた。生活介護の中で、決まった仕事に関しては申し分ないが、なかまっちのような臨機応変に様々な利用者と関わる事には適性が合っていなかったように思う。

・今回、当初の人事異動プランが叶わず第2のプランとして今回の異動が行われた。当初のプランの方はつどいの中心を担う方だった。そういう方が異動できない現状をもっと検討した方が良いのではないか？

次回理事会　（日時）　令和6年7月16日（火）18時～

（会場）　区立児童相談所内　活動支援スペース 地下会議室

1. 議長解任

以上、本議事録が正確であることを証します。

令和　　　　年　　　　月　　　日

議長

　　　　　　　　　　　　　　　　　　印

　　　　議事録署名人

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　印

　　　　議事録署名人

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　印